

# 三保松原・マツ材線虫病被害の状況

— 微害傾向を維持 —



技術情報 VOL.3-3

(調査・検証) 一般財団法人三保松原保全研究所 R6.3

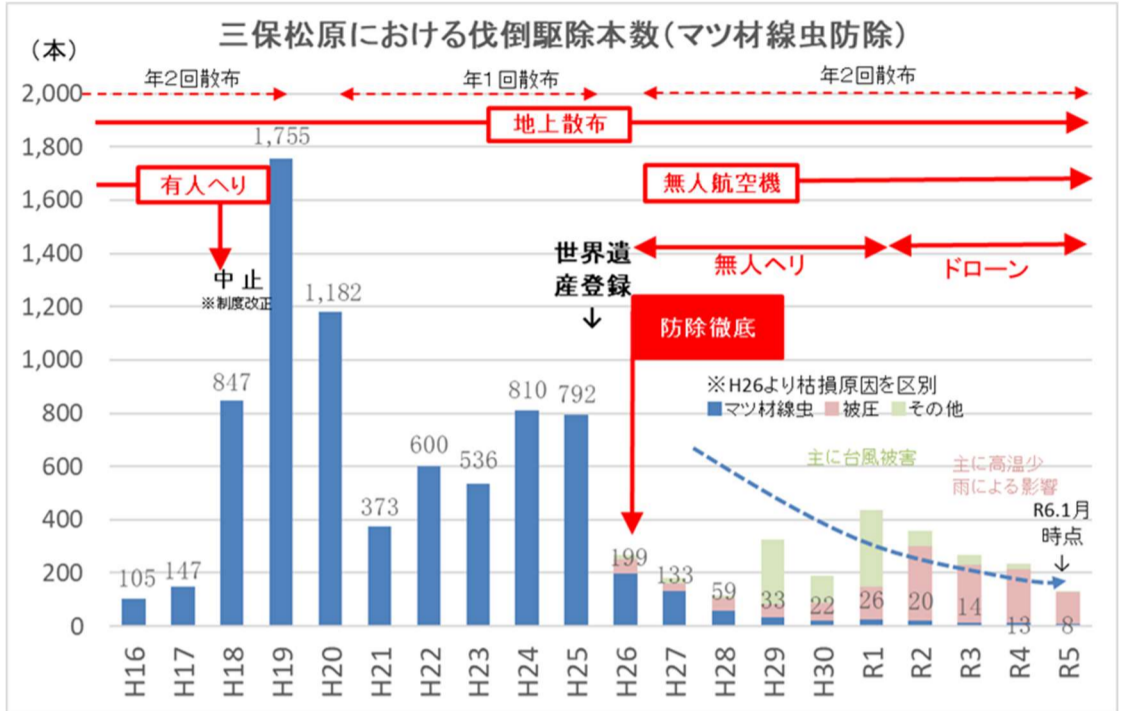
## ●被害の背景・推移

マツ材線虫病は、“世界4大樹木病害”に数えられるマツに激烈な被害をもたらす伝染病であり、病原体のマツノザイセンチュウと媒介者のマツノマダラカミキリにより引き起こされる。

三保松原では半世紀以上前から発生が確認されており、15年程前は微害を維持していたが、平成18年度に有人ヘリによる薬剤散布区域を地上散布に切り替えたことで(制度改正による)、2年間で被害木が約12倍に激増した。

その後も高止まり状態が続いていたが、平成25年度の富士山世界文化遺産構成資産の登録を契機に防除が徹底され、再び微害化している。

## ●被害の場所



### ◎近年の被害傾向

平成29年度に、防除目標値(1本/ha = 34本/年)以下を達成し、以降は微害を維持している。

近年特に被害が多かった半島南端は収束に向かっており、令和4年度の被害木のうちマツ材線虫病被害は前年度の7%減となり、微害を維持している。

令和5年度の被害木は、令和6年1月時点では8本確認されており、前年度同時期60%増(5本→8本)となったが、微害化傾向は維持している。



マツノマダラカミキリの幼虫 カミキリの食痕 マツノザイセンチュウ

### ◎その他要因

令和元年～2年度の特異的な高温少雨により、衰弱枯死が多数発生した。これら枯死木も伐倒駆除が必要である。

令和5年は平均気温が高い月が多く、3月及び9月に観測史上最高の平均気温を記録した。降水量は、7月及び9月の降水量は少なかったが、各月で一定程度の降雨があった。

